

錦秋の尾瀬（尾瀬沼・燧ヶ岳）山行報告

【山城】尾瀬

【日程】2017 年 10 月 7 日（土）～8 日（日）

【メンバー】CL 菊池・寺崎・大木・滝本・井上（志）

【行程】

7 日：千葉―御池―バス―沼山峠―尾瀬沼―時計回り―沼尻休憩所―見晴十字路―温泉小屋（泊）

8 日：温泉小屋―見晴十字路―見晴新道―燧ヶ岳・柴安嶺―俎嶺―熊沢田代―広沢田代―御池―帰葉

【目的】

- ・人気の温泉小屋に宿泊し、旬の錦秋尾瀬を堪能、写真撮影する。
- ・至仏山を踏破した寺崎さん・大木さん・井上（志）さんに燧ヶ岳も踏破していただく。



秋の尾瀬：至仏山と赤田代の草紅葉

・10 月 7 日～9 日は 3 連休で、この時期に紅葉の旬を迎えている。百名山を目指していた 1995 年のこの時期に御池―燧ヶ岳（俎嶺）―尾瀬沼―沼山峠―御池を日帰り経験し、草紅葉・木々の紅葉の素晴らしさを初体験したが、この時の思い出が忘れられなく、再度山小屋に宿泊してじっくり楽しみながら写真撮影をしたいと考えていた。

昨年夏に鳩待峠―アヤマ平―尾瀬ヶ原―鳩待峠と単独で日帰り山行したが、今夏は竜宮小屋泊で同ルートに至仏山登頂を加えた山行をちば山仲間 5 名で楽しんだ。このメンバーであった寺崎さん、大木さんに是非燧ヶ岳もセットで踏破していただきたいと考えていた。至仏山は最近、山スキーで毎年のように訪れているが、今年は大雪で鳩待峠までの開通が遅れ浄土平に転進した。燧ヶ岳も山スキーでは、以前はよく訪れていたが、今年のGWに

久しぶりに滝本さん等と豪快な滑走を楽しめた。体力的にハードな山行は控えるようになったが、尾瀬の楽しみ方は広範囲に渡っており、この 2 年ほどは頻回に訪れるようになっている。

8 月末、3 連休の初日に人気ある温泉小屋を 5 名で予約、個室が確保できるとのことで、メンバー集めにやや苦労した。3 名までは確保できたが、あとの 2 名のエントリーがなくやきもきした。最終的に至仏山スキーの経験ある井上（志）さんと昨年山スキーにドシドシ参加下さった滝本さんを加え 5 名のフルメンバーを確保できた。

・当初は御池までのアプローチが遠いため前夜発、桧枝岐で仮眠し 1 日目に燧ヶ岳に登頂し見晴十字路に下山、2 日目に三条の滝・尾瀬沼を楽しみ、沼山峠からバスで御池に戻る計画としていたが、7 日の天気予報では午前中は雨・強風予想のため、2 日目に燧ヶ岳登山に変更し、1 日目は悪天でもなんとかかなりそうで楽な尾瀬沼経由で温泉小屋に行くことに変更した。そのため雨の中の前夜発・テント仮眠は取りやめ、わが家を当日 2:45 発で頑張っていた。

・心配した未明の雨もそれほど強くなく、高速を順調に進みすでに雨が止んでいる上河内 S A で 20 分ほどの朝食・トイレ休憩を確保できた。高速を降りて塩原を経由し尾頭トンネルを通過し会津西街道を進んでいると、なんと燃料警告灯が点灯した。ガス欠に近いではないか、テント仮眠用品が不要となり、大木車から滝本車に急遽変更したため、前夜出張帰りで忙しい滝本さんはガソリンの量までチェックできなかったのである。まだ 50 km 強は走れると考えお落ち着いて前進、会津高原分岐付近のガソリンスタンドが 7 時から営業しており事なきを得ました。

・御池には予定時間よりかなり早く到着、青空が広がっていたが、悪天予想に駐車場は 1 ～2 割程度の入りである。支度を順調に終え 8:45 のバスに乗り込むことができた（写真 1）。御池の標高は 1550m、沼山峠は 1700m で紅葉はまさに見ごろを迎えており、バスの中では地元の自然保護の方からの



写真1



写真2

ガイドがあり、見所ではバスを一時停車させて、車窓から見るブナ平の素晴らしさを堪能させていただいた。

・9:20 頃登山口の沼山峠休憩所を出発し（写真 2）少し登って沼山峠から大江湿原に向かっての下りとなる。50 分足らずで開けた大江湿原に到着した。期待通りの素晴らしい草紅葉にうっとり、周辺の斜面も木々の多彩な紅葉で（写真 3）、一

同歓声を上げシャッターを押しまくった。ハイジの気分になったようにルンルン気分で尾瀬沼に向かう（写真 4）。大江湿原は 8～9 年ほど前にはニッコウキスゲが一面に豪快に咲いていたが、現在はどうであろうか？



女性陣の希望で長蔵小屋のカフェ（売店）でコーヒープレイクを取った。（写真 5）時間を要すが、景色の良い尾瀬沼湖畔を時計回りに進む登山道を選択した。尾瀬沼の向こうに燧ヶ岳を望むビューポイントで記念撮影したが、残念ながら上部は雲で覆われていた。（写真 6）



三平峠から下って到達する尾瀬沼山荘には大勢のハイカーが休憩していた。（写真 7）この先はアップダウンのある木道は降雨後で濡れており極めて滑りやすい状態である。危ない所は木道の脇を歩くようにした。メンバーに注意を喚起し慎重に進むが転倒するメンバー

が複数を数えた。湖畔の景色が良い所で写真を撮りながら（写真 8）ひたすら沼尻休憩所に向かった。沼尻休憩所では大勢のハイカーが休憩、韓国からの 30 名を超す団体ハイカーもいて賑やかであった。われわれも湖畔の滑りやすい木道の歩行が終了しほっとして行動食・休憩を取った。

ここから先は、主に下りの緩やかな登山道である。沢状地形があり、木道もあり、やはり滑りやすい登山道で慎重に進んだ。目を見張るような真っ赤なカエデの紅葉（写真 9）、多彩の広葉樹林の紅葉（写真 10）、さらに見晴十字路に近づくと、見事なブナの美林（写真 11）に癒されながら一日目の終盤を迎えた。



見晴十字路に到着する頃には風も弱くなり、薄日が差すようになって、夕暮れ近い尾瀬ヶ原は草紅葉で素晴らしいではないか。温泉小屋まで地図では 40 分となっているがゆっくり景色を楽しみ、写真を撮りながらも（写真 12）30 分弱で赤田代の端にある温泉小屋に到着した。外には今年の夏にオープンした素晴らしいテラスがあり、福島からいらした夫妻が生ビールを楽しんでいる。受付を焦って済ませ、我々も生ビール片手にテラスの仲間に加わった。（写真 13）

隣の夫妻と談笑しながら、ちば山メンバーで乾杯。寒くも暑くもない丁度良い心地よい夕暮れ、眼前の赤田代の草紅葉とその向こうに鎮座する山々の紅葉錦絵を、持参したナッツやビーフジャーキーに加えて酒の肴として楽しんだ。





石鹼は使用できないが温泉で汗を流し、風呂上がりに持参した金麦で更に上機嫌、夕食は懐石風で評判通り素晴らしい。サーモン・ローストビーフに天ぷらまであり、味も良く、大満足であった。(写真 14) 夕食後に温泉小屋の館内を見学してみるとなんとコーヒーだけでなくワイン・カクテルまで飲めるカフェ（ラウンジ）があり満席であった。寝不足と酔いのため眠気に我慢できず、カフェは次回に期待することにした。

先日NHKで放映していた尾瀬の番組で、以前よりお客さんが少なく、地元では若者や外国人にもできるだけ足を運んでもらうよう、いろいろな工夫しているとのことである。山ノ鼻には既に魅力的なカフェがオープンしており、各山小屋でも食事は良くなっており、設備にも種々工夫を凝らしているようである。

・2日目霧に包まれて夜が明けた。天気予報では晴れで気温がかなり高くなる。徐々に霧が晴れてきて、出発時にはワクワクするような素晴らしい尾瀬の朝を実感できた。草紅葉の向こうに幻想的な霧の下に、多彩な木々の紅葉、これらをバックに記念撮影して 7:10 スタートを切った。(写真 15)



温泉小屋のすぐ近くにはミズナラの大木とカエデの紅葉、(写真 16) 徐々に霧が晴れてくる



と至仏山が見えてきた。ダケカンバの白い幹が象徴的で素晴らしい。こんな素晴らしい秋の尾瀬は、ゆっくり宿泊してこそ味わえるのだ。ゆっくり楽しみながら、素晴らしい秋の尾瀬を目に焼き付けながら、見晴十字路に到着した。青空をバックにした樹木の紅葉が素晴らしい。(写真 17) ここからいよいよ見晴新道を経由しての燧ヶ岳への登頂である。見晴十字路は標高 1415m、山頂まで



標高差は約 950m である。



8 合目までは延々と泥んこでぬかるんでおり難儀し、休憩スペースを確保するのも容易ではなかった。(写真 18) 漸く森林限界の 8 合目に達すると登山道は乾いており、広大な尾瀬ヶ原が至仏山をバックに眼下に広がっていた。(写真 19)

山頂直下の急斜面を少し登ると大勢のハイカーで溢れる柴安峠(2356m)である。(写真 20) 順番に記念撮影を済ませ、(写真 21) しばし行動食・休憩を取った。燧ヶ岳には 7~8 回来ているが柴安峠は初めてであり、全て俎峠の登頂であった。渋滞する急な岩場を下り(写真 22) 鞍部から急斜面を登り三角点ある俎峠に到着、尾瀬沼を見下ろしながら小休憩をした。(写真 23) いつも山スキーで下る広大な急斜面であるが、登山道は沢地形を暫く下る。熊沢田代の池塘の脇で休憩、(写真 24) かつこよい越後三山が池塘の向こうに見える。



写真20



写真21



写真22



写真23



写真25

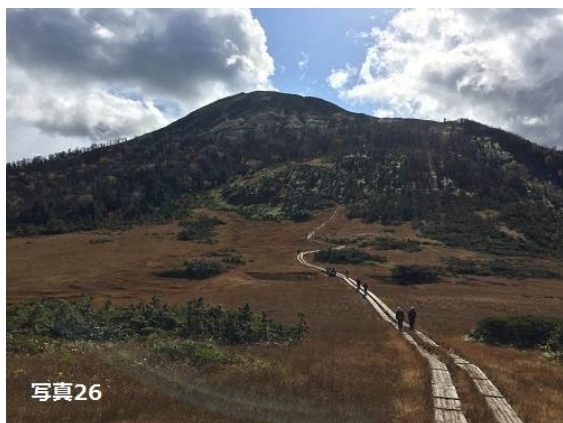


写真25

(写真 25) 振り返ると下ってきた豪快な燧ヶ岳の大斜面である。(写真 26) 階段や木道のある急斜面を慎重に下って行くと標高 1773mの広沢田代である。草紅葉の中に池塘が数個あり終盤戦の癒し効果抜群であった。(写真 27)

御池は標高 1550m、最後は急斜面の沢状の石がゴロゴロの試練の悪路の下りである。いつものように最後尾でゆっくり慎重に下り、15：30 頃駐車場に到着した。桧枝岐への下りはブナ平の道路脇は、最も見頃と思われる素晴らしく多彩な紅葉の林間走行であった。

・今回の尾瀬山行で、益々尾瀬にのめり込む自分を自覚し始めた。山スキーでは至仏山、燧ヶ岳だけでなく、いろいろなルートで尾瀬一帯のネイチャースキーを探求すべく検討し



始めている。夏・秋には次回にどのような目的で、どのルートを通ろうか、などなど夢は果てしない。

2017 年 10 月 14 日 5 : 00 作成 菊池